

カリキュラムと履修の基礎知識

1. 高校までと大学との違いとは？ —「自主・自立」と「単位制」

高校までの学校生活とは違って、大学には「ホームルーム」はありません。したがって、ホームルームの時間を通じた担任からの情報伝達などありません。

大学では、ポータルサイトを通じた連絡や掲示板に掲載される指示などに注意して、**必要な情報は自分自身で入手し、判断、行動しなくてはならない**のです。

面倒で大変！と思うかもしれませんが、逆にいえば、**ルール**の範囲内であれば、**自分の意志で様々なことを決定できる自由がある**ともいえます。

また、クラス共通の時間割というものもありません。必要な科目を自分で選択して受講し単位を獲得することで、資格取得や卒業の条件を満たしていかななくてはならないのです。

このセクションでは、皆さんがこの《教務ガイド》を使って、自分の時間割を設計し、卒業までの履修計画が立てられるように、カリキュラムと履修の基礎知識について解説してゆきます。

2. カリキュラムに関する〈用語〉を知ろう！

学生の皆さんは、『履修の手引き』や『履修要項』などの資料を参考にしながら履修計画を立ててゆくことになるわけですが、これら資料の中には、カリキュラムに関する色々な用語が使われています。まずはこれらの用語について確認しておきましょう。

(1) 「単位」とは？

辞書には「進級・卒業の資格を認定するために用いられる学課履修計算の基準」などと説明されています。わかりやすくいうと、**学習時間に応じて割り当てられる、科目ごとの「ポイント」**のようなものと思えばよいでしょう。

この「ポイント」を貯めて、様々な所定の数値をクリアしていくことで資格取得や卒業が可能となるわけです。

では、具体的には時間と単位の割合はどのようになっているのでしょうか？ 本学の学則第17条には「(1)講義および演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とし…」とあります。本学では、時間割1コマは90分(1.5時間)ですが、授業時間外の準備時間(予習・復習とは別)を含めて、1回分の授業を120分(2時間)と見なします。したがって、半期15回の授業を行う科目であれば、総時間数は15回×2時間=30時間となり、これを「2単位」と見なすわけです。(語学・実技・実習系の科目はその半分で、30時間で1単位。)

◆「大学設置基準」という法令には、「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし…」と書かれています。つまり、2単位の科目であれば、法令上、90時間の学修を必要とすることになります。授業は1コマを2時間として計算しますが、それでも2時間×15回=30時間しかないので、授業時間内で行われる学修の他に、残り60時間分を授業外の時間で補充しなくてはなりません。つまり、時間割1コマ分の科目を選択するなら

ば、2 コマ相当の自習時間を覚悟する必要がある、ということなのです。この点も十分に考慮して科目選択に臨んでください！

(2) 「授業」・「科目」とは？

「授業」とは、狭義には通常週1回、90分、教室で行われる教育活動を指します。一方、「科目」とは、この「授業」15回分（通年の科目ならば30回分）を1セットとする、ある期間にわたって展開される「コース」のことです。この「科目」を指して「授業（授業科目ともいう）」と呼ぶ場合もあるので（例えば「この授業では〇〇学の基礎知識を学んでゆきます」など）、使い分けに注意しましょう。

◆「科目」とはもともと、「ある事柄をいくつかの項目や種目に区分した時の、その一つ一つの区分」を意味します。つまり、ある分野を扱う学科で言えば、その分野の学問領域全体の中の、区切られた一部門について学ぶための授業セットだということです。

(3) 「卒業要件」とは？

「卒業要件」とは、**卒業の認定を受けるために必要となる条件**を指します。このガイドの79～81頁、94～96頁に各学科の「卒業要件」の表が載っています。まず総単位数として、文学部では合計124単位以上、人間生活学部人間生活学科・子ども教育学科では127単位以上、食物栄養学科では130単位以上を修得しなくてはなりません。それ以外にも、必修・選択必修など、所定の単位数を獲得することが、条件として学科（専修）ごとに定められています。

「進級要件」（2年から3年に進級する時の条件）も同様ですが、これは総単位数などが学科ごとに異なりますので、それぞれの学科の条件をよく確認しておきましょう。

授業科目 区分	大学共通科目		英語文化学科 専門科目	日本語・日本文学科 専門科目	文化総合学科 専門科目	文学部 オープン科目
	教養科目	外国語科目				
必修単位	3単位		28単位 ^{(*)1}			
選択必修単位	8単位以上	8単位以上	32単位以上 ^{(*)2}			
選択単位	11単位以上					
自由選択単位	34単位以上					
卒業必要単位数 合計	124単位以上					

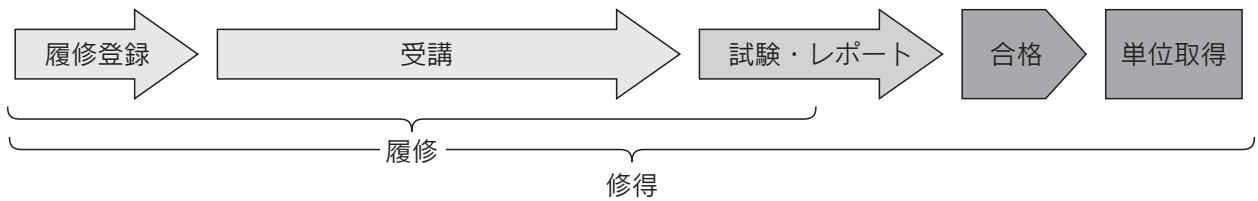
例えば、上記の表は英語文化学科の「卒業要件」を示したものですが、総単位数124単位以上の他に、内訳として、教養科目から必修単位3単位、選択必修単位8単位以上、外国語科目から選択必修単位8単位以上などの条件が設定されています。さらに細かい条件も設定されていて、それについては表外の注釈に詳しく記載されています。よく読んでおきましょう。

(4) 「履修」・「修得」とは？

単位を取得するためには、①**まず受講申し込みを行い**、②**授業を受けて課された学修内容をこなす**、③**その成果を試験やレポートで示し**、④**合格の評価をもらう**、という一連の手続き・作業が必要になります。

「履修」とは、上記のうち、①～②に当たる、定められた受講申し込み手続き（「履修登録」という）をして、授業を受ける（「受講」という）ことを指しています。

また、「**修得**」とは、①～④の**全体**をカバーしています。つまり、ある科目を登録して受講し、試験を受けたり、レポートを提出したうえで、合格して単位を受け取ることまでを指しています。



◆「履修」とは、一種の「契約」であるとも言えます。「履修登録」をすることで、教員と学生が契約を結び、教員は事前に示した「シラバス」（〈契約内容〉に相当）に則って授業を進め、受講者は課せられた学修内容をこなし、試験等の評価方法を通じて「シラバス」に示された到達目標を一定の基準で満たしていることが認定されれば、単位が与えられる、ということになるわけです。

(5) 「必修単位」・「選択必修単位」・「選択単位」とは？

「必修単位」とは、**必ず修得しなくてはならない科目の単位を指します。**

「選択必修単位」とは、**幾つかの指定された科目の中から、決まった数を修得する単位です。**

また、「選択単位」とは、大学共通科目や学科専門科目などの大きな科目群の中から、科目の指定なく、決まった数を修得しなくてはならない単位の事です。

◆例えば、藤女子大学の全学生は、教養科目の中の「キリスト教概論」が「必修」になっていますので、必ずこの科目の2単位を修得しておかないと卒業することができません。また、英語文化学科の学生は、学科専門科目の中の「文学・文化基礎演習」が「選択必修」となっていますので、「文学・文化基礎演習 A～E」の5科目の中から1科目2単位以上を修得しないとやはり卒業することができないのです。

◆卒業要件の「必修」の他に、資格取得のための「必修」というものもあります。ただし、ある科目が「資格の必修」に指定されている場合、資格を取る人にとっては「必修」でも、それ以外の人にとっては「選択」なので、「教育課程表」には「選択単位」として記載されます。

(6) 「シラバス」とは？

「シラバス」は、「講義概要」ともいい、**講義の目的、講義による到達目標、毎回の授業内容、成績評価の方法**などが示されています。教員は基本このシラバスに従って授業を行います。

◆「シラバス」は「契約内容」に相当します。教員は原則それに従って授業をする義務を負いますので、学生が履修計画を立てる際には、この「シラバス」の内容を吟味しながら科目の選択をすることになります。主に、「授業のねらい」「到達目標」「授業方法」「成績評価の方法」を参考にするのが良いでしょう。多くの大学では、何回目の授業でどのような内容をカバーするかということを箇条書きにする形式のシラバスが採用されており、本学もそれに倣っています。課題や授業外学修の指示などが記載されている場合は、それに従って下さい。シラバスの「授業計画」部分は、学生が科目選択する際にイメージしやすいように示された目安と考えてください（もちろん何の断りもなしに大きく逸脱することはありません）。

(7) 「教育課程表」とは？

「教育課程」とは、「カリキュラム (curriculum)」の訳語で、「教育目的の実現のために行う教育活動計画の全体」を指しています。要するに、教育目的を達するための科目構成や履修の道筋の設計のことです。これを具体化したのが「教育課程表」で、ここには科目が一覧で並べられ、それぞれの科目について、**単位数、必修選択の別、どの学年に何時間分開設されているのかなど**の情報が記載されています。本学では、大学共通科目と学科専門科目を組み合わせる形で教育課程が組み立てられていますが、「教育課程表」は各科目群（教養科目・外国語科目・学科専門科目など）ごとに区分して作られています。

次の図は「教育課程表」の教養科目群のうち、冒頭部分にある「人間と宗教」の区分です。図のように、選択必修の科目は「単位」の欄では選択の方に単位数が記入されています。また、備考欄にも、選択必修に関する情報などの重要事項が書かれています。見落とすと後々困ることにもなりかねませんので、備考欄の記載にも十分注意してください。

区分	科目 No.	授業科目	単位		開講学年・週時数								学科	備考
			必修	選択	1年		2年		3年		4年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
人間と宗教	00901	キリスト教概論	2										英 日 文	6科目の中から1科目以上 選択必修
	00902													
	00903													
	00911	キリスト教と藤女子大学	2		○									
	00921	キリスト教人間学A	2	2										
	00931	キリスト教人間学B	2		2									
	00941	聖書概論A	2	2										
	00951	聖書概論B	2		2									
00961	宗教と文化	2		2										

必修 2 単位

集中講義の科目は「○」で記入

学科ごとにクラス分けして開講

1 年次前期に週 2 時間 (1 コマ) 開講

選択必修の指定

(8) 「学期」・「セメスター」とは？

教育の全課程を修業年限の年数に応じ区分編成するための一定の期間（通常は1年間）を「学年」といいますが、「学期」とは、この学年を教育的配慮に基づいて幾つかに区切った期間を指します。本学においては、「学期」は**前期（4月～9月）と後期（9月～3月）の2学期**とし、各学期は15週を原則としています。学年を2学期に区切るときの1学期を「セメスター (semester)」といい、授業科目を1学期ごとに完結させる制度を「セメスター制」といいます。本学でも、多くの科目でセメスター制が取られています。

◆セメスターよりも細かい学期の分け方として、三期制やクォーター制（四期制）を採用する大学もあります。ごく一部ですが本学でも、前後期をさらに前半と後半に分割した四期で開講しているものがあります。

◆集中講義とは、授業期間外の短期間（通常は1週間）に集中して授業を行う開講形態をいいます。遠隔地の教員を招いて授業を担当してもらう場合などに採用され、1日に3～4コマの授業を行って4～5日で完結する方式が一般的です。

履修の
キ
基
礎
知
識
と

(9) 「学年暦」とは？

「学年暦」とは、本学における一年間の授業期間や、授業日、行事日、休講日や、諸々の手続き期間等を定めたものを指します。本学では、1学期の授業回数15回分を確保するため、祝日等にも授業を実施する場合がありますが、そのような情報も「学年暦」に載せられていますので、注意して見ておくようにしましょう。

(10) 「課程」とは？

「課程」とは、各学科のカリキュラムとは別に開設された、資格取得のための専門的カリキュラムに基づくコースを指しています。「教職課程」も教員免許状という資格を取得するためのコースですが、その科目は一部、卒業要件単位に充当することができるため、他の資格向けのコースと異なり、各学部の授業科目に組み入れられています。それ以外の「図書館情報学課程」(両学部共通)、「日本語教員養成課程」(文学部のみ)については、大学の教育課程とは別立ての独立したコースとなっています(大学の授業料とは別の受講料が発生します)。

(11) 「文学部オープン科目」とは？

本学の授業科目は、大学共通科目、学科専門科目及び教職に関する科目から構成されますが、文学部には、その他に「キリスト教学専修」選択者のための「文学部オープン科目」が設けられています。この科目群は、文学部のどの学科の学生でも選択することが可能です。

◆「キリスト教学専修」の履修については『キリスト教学専修履修要項』(90～91頁)を確認してください。

(12) 「ポータルサイト」とは？

一般に「ポータルサイト」というと「インターネット上で情報を探し出すための基点となるサービス」のことで、「Yahoo!」「Google」などがその代表とされます。本学の「ポータルサイト」は、通称「F-Station」といい、**大学からのメッセージやスケジュール管理を支援するためのWebサイト**です。学生は、これを通じて教職員が発信した大学からのお知らせなどを、学内・学外問わずインターネットに接続されたパソコンやスマートフォンなどから確認できます。

(13) 授業支援システム「Glexa」

Glexa(グレクサ)は藤女子大学で採用している授業支援システムです。

インターネットを利用し授業資料の受け取りやレポート課題の提出、試験などを行うことができます。履修登録後は、授業の事前連絡や事後学習の指示、授業の補足、追加資料等々を受け取ったり、レポート課題の配布や提出を行ったりする場合があります。利用については各教員の指示に従ってください。

3. カリキュラムと履修に関するルールを知ろう！

ここでは、知っておくべきカリキュラムと履修に関するルールの基本について説明します。『履修要項』の記載内容と関わりますので、該当のページを参照しながら読んでください。

(1) 履修登録について

① 履修登録とは？

どの授業を受講するかを決めて、**受講の申し込み**をする作業を指します。本学では Web 上で手続きをしてもらう形式を取っています。方法についてはガイダンスを実施しますので、そこでよく確認してください。

② 履修登録期間

履修登録は**指定された期日の間に行う**必要があります。学年によって期間が異なりますので、学年暦に記載された期日をよく確認してください。文学部では前期と後期にそれぞれ履修登録期間が設けられていますが、人間生活学部では登録期間は前期のみとなっていますので注意してください。履修登録後に確認と修正の期間が設けられており、これを過ぎての**変更はできません**。

③ 履修上限単位数

履修登録できる年間単位数には上限が決められています（文学部 85 頁、人間生活学部 102 頁）。上限は、法令による「1 単位＝45 時間」という学修時間を考慮し、年間 50 単位未満になるように設定されています。

◆仮に年に 48 単位分の科目を履修するとすれば、計算上では週あたり 48 時間、1 日あたり約 7 時間の授業外学修を要することになりますから、これはもうほぼ限界と言えるでしょう。

④ 事前登録

受講希望者が教室等の収容人数を超える可能性のある科目については、希望者に事前登録をもらい、抽選によって受講者を決定する場合があります。ポータルサイト、掲示等の情報に注意してください。

⑤ 履修条件のつく科目

科目によっては、前もって別の科目を修得しておくなどの条件を満たさないと履修できないものがあります。例えば、文学部の外国語科目では、初級の科目を修得しておかないと中級の科目が取れないなどのルールが決められています（『履修の手引き』108～109 頁「外国語科目」）。

また、文化総合学科の学科専門科目の履修には細かな条件が定められています。「文化総合学科専門科目の履修条件について」（130～133 頁）などをよく確認しておいてください。

(2) 履修についての注意事項

① 必ず履修登録すること！

履修登録をしていない科目は**履修することができません**。履修登録をしていなければ、たとえ授業に出席していたとしても「履修」とは見なされず、単位が与えられない、ということになります。

② 全授業に出席することが前提！

前にも述べたように、「1単位=45時間」という学修時間が法令で定められています。それだけの学修内容を確保するためには、**全部の授業に出席することが前提**となりますし、欠席した場合には何らかの方法で**不足の学修内容を補完**しなくてはなりません。ただし、欠席した場合に不足を補充する時間にも限界があることから、「**欠席時(回)数が総授業時(回)数の1/3を超えないこと**」というルールが定められています(文学部 82 頁、人間生活学部 96 頁)。

◆「欠席回数が1/3を超えないこと」というルールを、「1/3までは欠席する権利がある」という意味に解釈している人がいますが、そうではありません。あくまでも全部の授業に出席するのが前提です。病気や忌引きなどのやむを得ない事情によって欠席した場合に、何らかの方法で学修時間の補完が可能と見なせる回数の限度を「1/3まで」と定めているだけなのです。

(3) 試験について

① 試験とは？

ご存知の通り、学修の達成度を測るため、設問に対して一定の時間内に解答させる方式の提出物のことです。文学部では、一般に前期および後期の授業期間終了後の1週間で定期試験が行われますが、人間生活学部では、授業期間中(補講期間含む)に試験が行われます。また、科目の性質により、授業期間中に試験を実施して結果をフィードバックしたり、試験の代わりにレポート・作品等の提出を課したりする場合があります。

② 追試験とは？

やむを得ない事情で試験を欠席した学生が「追試験願」を提出して、受験が認められた場合に行う試験のことです。

◆ただし、しかるべき欠席の理由がなければ認められませんので注意してください(理由の一覧については文学部 86 頁、人間生活学部 101 頁を参照)。

③ 再試験とは？

成績結果が不合格になった場合に行う試験を指します(再試験を実施する科目は必修科目など一部のみに限られます)。授業担当者の判断で実施するかどうか、どの受講者を対象とするかを決め、実施する場合には、対象者が願い出ることができます。なお、再試験に合格した場合は、成績は60点(評価「C」)となります。

④ 不正行為

本学の教育および成績評価の質を保証するため、不正行為に対しては厳正に対応します。不正行為を行った場合には「藤女子大学学生懲戒に関する規程」に従って処分の対象となります(不正の種別と具体的な処分については同規程の表を参照)。

取り扱いについては『履修要項』(文学部 87 頁、人間生活学部 102 頁)を確認してください。

(4) 成績について

① 評価基準

成績は「評価基準」(文学部 87 頁、人間生活学部 102 頁)に従い、原則としては点数で評価され、

点数の幅に応じて **A+・A・B・C・Fの5段階**に分けられます。5段階の中で、A+～Cまでが合格、Fが不合格です。この5段階評価の他に、学外実習等の、点数による評価が困難な科目については、「認定」(合格)「不認定」(不合格)の2段階で評価がなされます。

試験を欠席し(レポート等の場合は期限までに未提出)、その後、追試験の願い出がない場合や、欠席が授業回数の1/3を超えている場合は「放棄」という扱いとなります。

② 成績の通知

成績は所定の日にはポータルサイトを通じて通知されます(日程は学年暦に記載されています)。通知された成績について疑義がある場合は、所定の期日内であれば教務課を通じて教員に確認を求めることができます。

(5) 「GPA」について

① 「GPA」とは？

「GPA」とは「Grade Point Average」の略で、成績評価の5段階に点数(Grade Point=GP)を割り当てて集計し、各学生が獲得した1単位あたりの平均点を算出したもので、学生の学修状況の全体像や達成度の概略を把握するための指標として利用されます。本学においては、A+の評価を4点、Aを3点、Bを2点、Cを1点、Fを0点として、それぞれに獲得した単位数を掛けて合計し、それを登録した総単位数で割って算出しています。素点の平均点を算出するのでも良さそうなものですが、その場合、不合格の場合の点数や放棄の0点との差が大きくなりすぎるのでこのような換算を行うのです。

◆例えば、1学期に12科目(各2単位)を履修登録し、A+を1つ、Aを4つ、Bを3つ、Cを2つ、Fを1つ取り、1科目を放棄したとします。この場合は、GPに獲得単位数を掛けた合計の、 $(4 \times 2) + (3 \times 8) + (2 \times 6) + (1 \times 4) = 48$ という数値を、登録総単位数24で割ることで算出します。つまり、この場合のGPAは2.0となります。この例のように、放棄した場合でも計算の分母には含まれます。安易に履修登録して放棄してしまうとGPAに影響しますので、くれぐれも注意してください。

② 「GPA」の活用

「GPA」は、教員が客観的に学生の学修状況を把握するための指標となり、履修指導を行う際の参考資料などとして活用されます。また、一部の授業の履修条件や、協定校派遣留学生の選考、就職活動における学校推薦対象者の選考などの場面でも活用されます。

(6) 「認定単位」について

① 「認定単位」とは？

他大学等で修得した単位を本学の単位として認定することを指します。本学における認定単位には「既修得単位」と「協定校修得単位」の別があります。

② 「既修得単位」とは？

他の大学を卒業するなどして本学に入学した学生が、卒業した大学で修得した単位を本学の単位として認定するよう申請する場合、60単位を超えない範囲で認定することができます。この申請を行う場合は所定の期日までに所定の手続きをする必要があります(文学部83頁、人間生活学部97頁)。

③ 「協定校修得単位」とは？

海外・国内の協定校に留学して修得した単位、および札幌圏大学・短期大学間単位互換協定校（人間生活学部生のみ）で修得した単位を、本学の単位として認定することを指します。認定の方法や認定可能な単位数の上限などについては『履修要項』で確認してください（文学部 83～85 頁、人間生活学部 97～99 頁）。

海外協定校で実施される語学研修については、協定校から単位を授与された場合でなくても、研修時間数に基づき、「海外語学研修」という科目として認定する場合があります。詳しくは『履修要項』などを参照してください。